

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 4 日現在

機関番号：32621

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2014

課題番号：23530183

研究課題名(和文)中国の対外援助外交の理論と実践

研究課題名(英文)China's Foreign Aid Diplomacy: Its Theory and Practice

研究代表者

渡辺 紫乃(Watanabe, Shino)

上智大学・総合グローバル学部・准教授

研究者番号：10582637

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は1950年以来の中国の対外援助を分析し、中国の対外援助の実態や対外援助政策の変遷と概要を解明した。また、中国の対外援助が中国外交の中で一貫して極めて重要な役割を果たしてきただけでなく、今日では「政府開発援助(ODA)」の定義の見直しや援助を通じて得られる経済利益の重視など、既存の国際援助コミュニティによる援助のやり方にも大きな影響を及ぼすようになったことを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：This study examined China's foreign aid from 1950 to the present and clarified the realities and the evolution of China's foreign aid policy over the past 60 years. The author found that foreign aid has been playing an integral role in shaping China's foreign policy and that China's foreign aid has a growing influence on the international aid community by making them reconsider the traditional definition of Official Development Assistance (ODA) and their manner of giving.

研究分野：政治学、国際関係論

キーワード：中国外交 対外政策 対外援助 国際開発援助

1. 研究開始当初の背景

中国は建国翌年の1950年に対外援助を開始した。以後、中国は国際援助コミュニティの中核組織である経済協力開発機構(OECD)の開発援助委員会(DAC)に加盟せず、政府開発援助(ODA)の概念にとらわれずに独自の対外援助を展開してきた。そのうえ、中国政府が対外援助に関する体系的なデータを公開してこなかったため、中国の対外援助の詳細はほとんど知られていない。

中国の対外援助に関する研究も、その比較的長い歴史に比べると極めて手薄である。そのうえ、ほとんどの先行研究は海外の研究者によるものである(例えば、石林『当代中国的対外経済合作』(中国社会科学出版社、1989年)や、周弘「中国新的対外援助」王逸舟編『中国対外関係転型30年(1978-2008)』(社会科学文献出版社、2008年)、Deborah Brautigam, *The Dragon's Gift* (Oxford: Oxford University Press, 2010)など)。

これらの先行研究は、中国の対外援助の実態を知るうえで参考になるが、研究の主目的が中国の対外援助の実態の説明にあるため、中国の対外援助の研究は発展の余地が大きいといえる。

2. 研究の目的

本研究は、中国の対外援助の全体像や中国外交における役割などの分析を行うことで、中国の対外援助に関する研究をさらに発展させるものである。

具体的には、(1)中国の対外援助政策の変遷と概要、(2)中国の外交政策における対外援助の位置づけ、(3)近年の中国の対外援助外交が先進国ドナーを中心とする国際援助コミュニティ及びそれ以外の新興ドナーに与える影響、(4)中国の対外援助外交自体の変容の4点について詳細に分析することを目的とした。

そして、中国が米国や西側諸国を中心に形成されてきた既存の国際秩序に対して、今後どのように振る舞っていくのかを考えるための示唆を提供することを目指した。

3. 研究の方法

本研究は、上記の研究目的を達成するため、主として、(1)日本語・英語・中国語の文献調査、(2)国内外での聞き取り調査と意見交換、(3)国内外の学会などでの研究成果の発表によるフィードバックの取得の3つの方法をとることで、より精度の高い研究をすることを目指した。

(1) 文献調査

中国の対外援助を直接のテーマとした資料は少ないため、中国の外交や対外政策、国際関係の文献の中で中国の対外援助に言及した資料、中国の対外援助の評価に言及した他国や国際機関による資料など、日本語・英語・中国語の文献を幅広く収集した。また、北京市にある中国外交部档案館(外交史料

館)で一般公開されていた1949年~1965年の档案の中から対外援助に関連する資料を収集した。

(2) 聞き取り調査と意見交換

日本の大学やシンクタンクなどの研究者・専門家や政策関係者を相手とするヒアリングと意見交換を行った。また、中国(北京)と米国(ワシントンDC、ボストン)において、大学やシンクタンクなどの研究者・専門家、大使館関係者や国際機関職員などを相手とするヒアリングと意見交換を行った。

(3) 学会などでの研究成果の発表

国内外の学会や研究会などで研究発表を行うことで、国内外の幅広い層の研究者などから有益なフィードバックを多く得た。

4. 研究成果

(1) 中国の対外援助政策の変遷と概要

中国は1950年代から60年代には、社会主義諸国の反米・反植民地主義や民族独立運動を支援したり、アジア・アフリカ諸国との友好関係構築による中国の国連代表権の獲得をめざすなど、社会主義路線での建国支援と第三世界での中国の影響力の確保を目指していた。

70年代半ば以降は78年の改革開放政策の実施もあって、中国は対外援助においても自国の経済発展への貢献を最優先することにした。その結果、中国の経済成長を促進する輸出振興の手段として、対外援助が広く使われるようになった。

中国は90年代以降、中国企業の「走出去」(海外進出)を支援したり、石油・天然ガスなどの資源を確保する目的でも対外援助を活用した。そして、2000年代には対外援助額が大幅に増加し、中国の援助のプレゼンスが急速に高まった。

近年、対外援助は中国の平和的な台頭をアピールする複合的な外交ツールへとさらなる進化を遂げている。このように、中国の対外援助は中国の政治・経済・外交を体現した極めて重要な政策手段であることが分かった。

(2) 中国の対外援助の実態

今日の中国の対外援助は、一般的な物資、ワンセットになったプロジェクト、人的資源の開発・協力、技術協力、対外援助医療チームの派遣、緊急人道主義援助(対外人道主義緊急援助応急メカニズムとしては2004年に正式に確立)、対外援助ボランティアの派遣(青年ボランティアは2002年から、中国語教師ボランティアは2003年から)、債務免除(2000年から)の8種類に分かれている。このうち、前の5つは1950年代から1960年代初めに相次いで導入された伝統的な援助方式であるが、残りは近年になって援助方式として追加された。このように、中国の対外援助方式は多様化している。

中国の対外援助は1990年代半ばに転換期を迎えた。中国は1995年から開発途上国向

けに長期間の低利息借款である特惠貸付を提供し始めた。特惠貸付の元本は中国輸出入銀行が市場調達し、金利の一部は中国政府によって国家財政から中国輸出入銀行に補填される。そのため、中国政府からすれば、特惠貸付は民間資金を対外援助資金として活用できる仕組みである。実際、特惠貸付は、中国の対外援助額が2000年代以降急速に増加する原動力となった。

中国は近年、豊富な外貨準備を背景に、「中国アフリカ基金」や「シルクロード基金」など、特定の地域やプロジェクトへの資金提供を行う基金を独自に作り、対外援助資金として活用するようになった。このように、中国の対外援助は資金面でも充実しつつあり、今後も中国の対外援助のプレゼンスが一層高まることが見込まれる。

(3) 中国外交における対外援助の位置付け

対外援助は、建国から改革開放政策導入期までの中国にとって、対途上国外交（特に二国間外交）を推進するために有効なツールであった。そのため、中国が直接被援助国に提供する二国間援助が中心であり、国際機関との関係は極めて限られたものであった。なお、中国はこの時期、多国間援助を受け入れることはなかった。

中国は70年代半ば以降、経済成長を促進する輸出振興の手段として対外援助を重視するようになった。また、中国は1980年には国際通貨基金（IMF）や国際復興開発銀行（IBRD）に加盟し、これらの国際開発援助・金融機関からも積極的に資金と技術を獲得するようになった。とはいえ、当時の中国は、経済発展に必要な資金と先端技術を確保する手段として国際開発援助・金融機関を認識していたため、多国籍機関とは被援助国としての関わりが中心であった。

中国が地域金融機関への関与を強めるのは1980年代半ば以降であった。中国は、アフリカ開発銀行（AfDB）に融資や資金提供をすることが政治的なメリットであるとともに、中国とアフリカとの経済協力の新しいルートになると考え、85年にAfDBに加盟した。翌86年には、中国のアジア地域での政治経済面での協力を強化することと資金と知識面での支援を得ることを期待してアジア開発銀行（ADB）に加盟した。

1990年代半ばになると、中国の対外援助に中国企業の「走出去」（海外進出）の支援や石油・天然ガスなどの資源確保の目的も加わり、特惠貸付を中心とする今日の対外援助体制になった。この時期、中国は国際機関に対して贈与と出資以外に貸与も行うようになった。

2000年代には中国の対外援助は量・質ともに新たな段階に入った。中国は国連や自らが主導する地域協力メカニズム（例えば中国・アフリカ協力フォーラム）の会議で大型の援助公約を表明するようになった。その公約の中身も国際社会の共通の課題である「ミレニ-

ウム開発目標」に関連づけて発表するなど、国際貢献を重視する中国の姿勢が強まった。このように、中国の対外援助は、二国間外交を推進するものから多国間外交まで視野に入れたものへと進化してきたことが分かった。

(4) 中国と国際開発援助レジームとの関係

国際開発援助の分野ではOECD・DACのメンバー国や国連、国際・地域金融機関などを中心にドナー・コミュニティが存在しており、開発援助に関する中核的な概念や共通の規範、ルールがある程度共有されている（「国際開発援助レジーム」）。そして、伝統的な先進国ドナーや国際機関は、国際開発援助レジームに従って行動することが期待されている。

一方、中国は国際開発援助レジームの枠外にあり、内政不干涉・相互互惠・中国企業の海外進出・タイド（ひも付き）を特徴とする対外援助を行ってきた。近年、その規模が拡大するにつれて、コンディショナリティの付与・グッドガバナンス・貧困削減・構造調整・アンタイドを目指す国際開発援助レジームとの違いが顕在化してきた。

中国の対外援助が国際社会や被援助国から問題視されていることはよく知られているが、本研究ではさらに、中国の対外援助のプレゼンスの拡大が、DACにODAの定義の見直しを迫るなど「アイデンティティの危機」に直面させていること、国際開発援助レジームの外部の主体である中国がレジームに選択的に参加することによって、既存の規範や援助行動を変化させる影響力を持ち始めていることが分かった。

中国は2013年秋以降、「新シルクロード経済圏」と「21世紀海のシルクロード」を建設するという「一帯一路」構想やアジアインフラ投資銀行（AIIB）の設立構想を表明し、国際開発援助だけではなく、周辺諸国を中心とする対外投資の拡大や国際金融秩序の形成にも積極的な役割を果たすようになっていく。今日、中国の対外援助は、貿易や投資、金融とともに、国際政治や世界経済の動向を大きく左右するものとして注目されている。今後は、中国の国際秩序戦略の中での対外援助の役割にも焦点をあてて研究を進めていく予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

渡辺紫乃「中国のシルクロード経済圏構想の実態と背景」『東亜』第573号、2015年3月、30-38頁。

渡辺紫乃「変化中的中日経貿関係：“政冷経熱”時代の終結？」『中国国際戦略評論』第7号、2014年、78-93頁。

渡辺紫乃「書評 岡田実著『対外援助国』

中国の創成と変容 1949-1964』、『アジア研究』第 60 巻第 2 号、2014 年、91-95 頁。

渡辺紫乃「中国の対外援助外交 その実態と課題」、『CISTEC Journal』第 148 号、2013 年、92-99 頁。

渡辺紫乃「中国の対外援助外交 国際開発援助レジームにとっての機会と挑戦」、『国際政治』第 172 号、2013 年、100-113 頁（査読あり）。

渡辺紫乃「中国の中央アジア外交 安全保障、資源エネルギー、経済面での協力と今後の課題」、『海外事情』第 60 巻 9 号、2012 年、32-48 頁。

〔学会発表〕(計 5 件)

Shino Watanabe, "China's Energy Policy in Central Asia: China's Growing Dilemma," 2014 Annual Convention, International Studies Association, Toronto, Canada, March 26, 2014.

Shino Watanabe, "China's Growing Presence in Central Asia: Its Challenges and Opportunities for the Region and Beyond," 2013 Annual Convention, International Studies Association, San Francisco, the United States, April 3, 2013.

渡辺紫乃「中国の対外援助の新展開 最近の変化の動向とその意味」2012 年度アジア政経学会東日本大会、大東文化大学（東京都・板橋区）、2012 年 5 月 19 日。

Shino Watanabe, "China's Growing Presence in Central Asia: China's Multifaceted Involvement in the Region and Its Implications for the US-Japan Relations," 2012 Annual Convention, Association for Asian Studies, Toronto, Canada, March 15, 2012.

渡辺紫乃「中国の対外援助と国際秩序」国際安全保障学会 2011 年度年次大会、拓殖大学（東京都・文京区）、2011 年 12 月 11 日。

〔図書〕(計 11 件)

Shino Watanabe, "China as a Rising Aid Donor," in James D. Wright ed., *International Encyclopedia of Social and Behavioral Sciences*, 2nd edition, vol.3, Elsevier, 2015, 502-507 (査読あり)。

渡辺紫乃「中朝経済協力の実像 逆説的な相互依存関係」中居良文編『中国の対韓半島政策』御茶の水書房、2013 年、65-101 頁。

渡辺紫乃「中国の対外援助」小笠原高雪・栗栖薫子・広瀬佳一・宮坂直史・森川幸一編『国際関係・安全保障用語辞典』ミネルヴァ書房、2013 年、209-210 頁。

渡辺紫乃「胡錦濤政権のエネルギー政策過程 政府、共産党、三大石油会社と「石油派」」日本国際問題研究所編『政権交代期の中国：胡錦濤時代の総括と習近平時代の展望』2013 年、59-78 頁。

渡辺紫乃「対外援助の概念と援助理念 その歴史的背景」下村恭民・大橋英夫 + 日本国際問題研究所編『中国の対外援助』日本経済評論社、2013 年、19-39 頁。

渡辺紫乃「対外援助と外交政策」下村恭民・大橋英夫 + 日本国際問題研究所編『中国の対外援助』日本経済評論社、2013 年、221-240 頁。

Shino Watanabe, "Implementation System: Tools and Institutions," in Yasutami Shimomura and Hideo Ohashi eds., *A Study of China's Foreign Aid: An Asian Perspective*, Palgrave Macmillan, 2013, 58-81.

Shino Watanabe, "China's Foreign Aid," in Hyo-sook Kim and David M. Potter eds., *Foreign Aid Competition in Northeast Asia*, Kumarian Press, 2012, 59-80.

Shino Watanabe, "Donors' Impact on China: How Have Major Donors Affected China's Economic Development and Foreign Aid Policy?" in Jin Sato and Yasutami Shimomura eds., *The Rise of Asian Donors: Japan's Impact on the Evolution of Emerging Donors*, Routledge, 2012, 87-113.

渡辺紫乃「中国の対外援助をめぐる中国国内での最近の議論の動向」日本国際問題研究所編『中国の対外援助』2012 年、117-130 頁。

渡辺紫乃「変動する国際援助秩序の中での中国の対外援助外交」日本国際問題研究所編『中国外交の問題領域別分析研究会』2011 年、51-62 頁。

〔産業財産権〕
出願状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6 . 研究組織

(1)研究代表者

渡辺 紫乃 (WATANABE SHINO)

上智大学・総合グローバル学部・准教授

研究者番号：10582637

(2)研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3)連携研究者

なし ()

研究者番号：